

彫刻家

sculpteur  
Hiroatsu Takata

# 高田厚博

没後30年展

2017

6月1日(木) - 7月2日(日)

9:30~17:00 26日(月) 休館

主催: 東松山市教育委員会

高坂図書館 2階 大会議室

〒355-0063 埼玉県東松山市元宿2-6-1 Phone: 0493-35-5120

Access: 東武東上線高坂駅西口下車徒歩5分

入場無料

# 彫刻家

高田 博厚

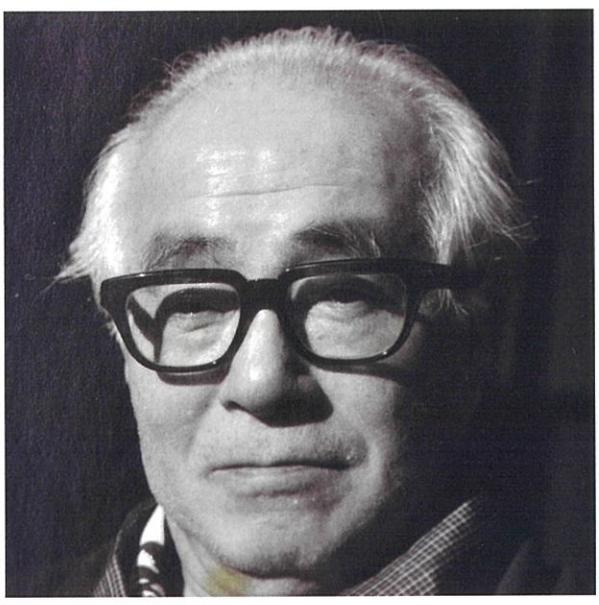
(たかた ひろあつ：彫刻家・随筆家 1900-1987)

石川県鹿島郡矢田郷村（現七尾市岩屋町）に生まれる。父安之助、母敏子。兄2人、妹1人。現代日本の最高の彫刻家と評される博厚だが、東松山市民にとっては、例えその名を知らなくとも「高坂駅西口にある彫刻の制作者」と聞けば、かの人か、と思うことだろう。

sculpteur  
Hiroatsu Takata

## 高田博厚の作品が高坂を飾ることになった経緯

高村光太郎（詩人、彫刻家）と交友のあった柳田知常（国文学者、俳人）は旧制松山中学校で教鞭を執っていたことがあり、同氏に田口弘（元市教育長、詩人）が師事していたことから、柳田を通じて高村と田口に交流が生じた。田口は高村を敬愛し、また博厚は高村と生涯に渡って交友関係を持ち続けていたから、田口と博厚の間には高村を挟んで間接的なつながりがあったと考えられるが、田口と博厚の直接の出会い、東京高島屋で開催された博厚の展覧会（「生誕80年記念高田博厚展」1980年）においてである。この出会いがきっかけとなり、博厚の作品が高松山市に置かれることになる。



田口と博厚が出会った当時の東松山市では、高坂駅西口土地区画整理事業が行われていた。その完成に伴い、当時の市長である芝崎亨が「何か記念になるものを」と田口に相談、田口は「一人の一流作家の作品で飾る彫刻通りが実現できれば、全国に誇れる彫刻通りになる」と提言した。当時、彫刻通りは数あれど、一人の作家の作品を揃えた例はなかった。そこで田口は博厚に話を持ちかけ、博厚はそれに応じたというわけである。

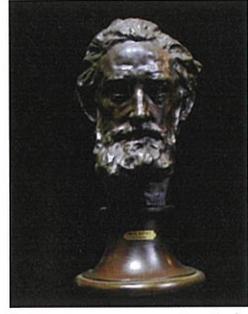
現在では高坂彫刻プロムナードと呼ばれる通りに、計32体の彫刻が設置され、街のシンボルとなっている。今回、小展ながら彫像の他、素描や絵画、関連書籍を含め20点余りを展示する。



マハトマ・ガンジー



自画像



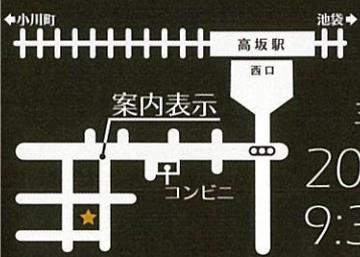
マルセル・マルチネ



ロマン・ロラン

## 彫刻家 高田博厚 没後30年展

入場無料



主催：東松山市教育委員会

2017年6月1日(木) - 7月2日(日)  
9:30~17:00 ※26日(月) 休館

## 高坂図書館 2階 大会議室

〒355-0063 埼玉県東松山市元宿2-6-1 Phone: 0493-35-5120  
Access: 東武東上線高坂駅西口下車徒歩5分  
このイベントについての問合せ先: 東松山市教育委員会 社会教育課  
〒355-8601 東松山市松葉町1-1-58 Phone: 0493-21-1431